

第16回放送番組審議機関 議事概要

■開催年月日：平成28年1月25日（月）

■開催場所：ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社 会議室

■Dlife放送番組審議機関審議委員（平成28年1月25日現在）

北村みどり（三宅デザイン事務所 代表取締役社長 21_21DESIGN SIGHT 代表取締役社長）

齊藤裕人（日本大学芸術学部映画学科教授）

中村伊知哉（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授）

早見優（歌手）

ピーター・バラカン（ブロードキャスター）

湯川れい子（作詞家・音楽評論家、エッセイスト）

吉田知子（株式会社oricon ME 取締役兼『オリ★スタ』編集部編集長）

四方田浩一（映像メディア総合研究所 代表）

*あいうえお順、敬称略

■出席した委員（敬称略）

北村みどり（三宅デザイン事務所 代表取締役社長 21_21DESIGN SIGHT 代表取締役社長）

齊藤裕人（日本大学芸術学部映画学科教授）

中村伊知哉（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授）

早見優（歌手）

ピーター・バラカン（ブロードキャスター）

湯川れい子（作詞家・音楽評論家、エッセイスト）

四方田浩一（映像メディア総合研究所 代表）

*あいうえお順、敬称略

■議題

・「日本民間放送連盟放送基準」第149条の改正に伴う、Dlife放送番組基準の一部改正について

・視聴者からの問い合わせ状況報告（平成27年10月～平成27年12月分）

・12月特別編成と1月編成について

・番組審議（作品紹介とディスカッション、プロモーションの紹介）

<審査番組>

「ボディ・オブ・プルーフ/死体の証言 シーズン1」 第1話

「『スター・ウォーズ』から最新作まで ILMの魔法の裏側」

「ディズニーの祭典 特別公開！～D23 Expo Japan 2015」

■議事概要

○「日本民間放送連盟放送基準」第149条の改正に伴う、Dlife放送番組基準の一部変更について。

一「日本民間放送連盟放送基準」が一部変更されるのに伴い、Dlife放送番組基準の変更が諮問された。

今回の変更は、プライムタイムにおけるコマーシャルの週間の総量18%を「超えないものにする」という現行の放送基準から「標準とする」という内容への変更を行うことにより、各局の創意工夫の余地が広げられることを目的とするものである、という日本民間放送連盟の放送基準変更を受け、自局の放送基準が日本民間放送連盟に準ずるために行うものであることを説明した。

審議員からは、「コマーシャルの総量を増やすことによって、コマーシャルの放送量を増やすことを奨励することに繋がらないのか?」、「意図的にステーション・ブレイクの回数を増やし、コマーシャルのチャンスを増やすことにならないか?」、「総数の上限が週間単位であることから、プライムタイムにコマーシャルの放送が集中する可能性は無いのか?」、「アメリカでも同じ傾向があるのか?」といった質問を受けた。

これに対し、今回の変更の意図を説明し、現在の編成から大きな変更を齎すことは無いことを説明し、「視聴者が受ける心象が悪くなることがなければ問題ない。」との見解を受けた。その上で、Dlife放送番組基準の変更は妥当であるとの答申がなされた。

○平成27年10月～平成27年12月までに、カスタマーサービスに寄せられた問い合わせ状況について、入電者の男女比率、年齢層、視聴者からの問い合わせや要望、また再放送の要望が高かった番組を報告し、確認された。

○12月と1月の編成の特徴について、以下の特別編成を中心に番組宣伝映像を交えながら説明を行った。

① 12月は、映画「スター・ウォーズ/フォースの覚醒」の公開を記念し、「スター・ウォーズ 覚醒月間」として特別編成を行い、関連したアニメーションからドキュメンタリーまで、大人から子供まで幅広い視聴者に向けた番組編成を行ったことが説明され、審議員からは、これまで公開された作品を含め、「スター・ウォーズ」シリーズ全体への関心を、子供たちに広げたことに貢献しているとの評価を受けた。

② 12月は、冬休み向けの特別編成「ディズニータイムのクリスマスプレゼント」を放送したことが説明された。

③ 1月より、ラスベガス、マイアミ、ニューヨークの3都市で展開される人気シリーズ「CSI：科学捜査班」「CSI：マイアミ」「CSI：NY」を一挙に楽しめる特別編成「CSI：3都市連続

放送」の放送を開始したことが説明された。

○委員からは次のような質問、意見・感想が述べられた。

―事前視聴された番組「ボディ・オブ・プルーフ／死体の証言 シーズン1」について、主役のダナ・デラニー演ずる主人公の女性検視官の魅力が発揮され、第一話ということで内容にやや詰め込まれた感があるものの、主人公の強さと母娘の関係にみられる弱さや同僚たちとの関係など、人情的で身近な要素も多く取り上げられた、気楽に楽しめて続きが楽しみになる番組である、という多数の高評価を受けた。

一方で、検視される遺体の描き方が美化されており、かつ猟奇的な一面も感じられる作品である、といった感想も寄せられた。

―事前視聴された番組「『スター・ウォーズ』から最新作まで ILMの魔法の裏側」について、全員の審議委員から、ILMが果たした映画史上における役割や、重要性がわかりやすく説明され、視聴価値の高い優れたドキュメンタリー番組であると、放送に対しての称賛が多々寄せられた。

―事前視聴された番組「「ディズニーの祭典 特別公開！～D23 Expo Japan 2015」については、ディズニーの世界観とファンの熱狂ぶりが伝わる大変楽しい内容で、ショーの全体を視聴したくなったという感想と共に、クオリティの改善の余地に対しての意見があり、今後の番組制作の参考とすることになった。

―1月に放送された『東野圭吾 原作映画 特集』について、放送に至る経緯について質問があり、邦画ファンに向けた秀作を放送することで、新たな視聴機会を提供したものであることが説明され、理解された。

以上